

2011 年

高岩仁監督作品上映会

シリーズ第5作

「資本主義は
戦争を必要としている」

明治以来、他国を侵略して経済発展を続けている日本
帝国主義列強の侵略と闘い、人民を解放し、階級のない社会をつくりだした中国

教えられなかった 戦争 中国編

— 侵略からの解放・革命 —

■スタッフ

製作・撮影	高岩 仁
撮影助手	小林 明
編集助手	横手三佐子
助言	川崎 晃暉
コーディネーター	李 楼
	長沼 仁
整音	菊地 信之
デザイン	篠崎 康行
ナレーター	常松理美子

■お話を撮影した方・日本人

元中国帰還者連絡会の方	15 名
元満蒙開拓青少年義勇軍隊員	1 名
元 731 部隊員	1 名
元中国人民解放軍兵士	5 名

■お話を撮影した方・中国人

炭坑労働者	1 名
農民	4 名
万人坑記念館の方	2 名
元抗日義勇軍兵士	1 名
八路軍兵士	1 名
元解放軍兵士	2 名
共産党員	1 名
社会科学院の方	4 名
ガイド	1 名

2011 年 2 月 5 日(土)

午後 1:40~4:40 (開場午後 1:10)

【プログラム／中国編上映・野田明さん講演・高岩仁監督のお話映像上映】

前売 1,300 円 (当日 1,500 円) 大学生以下 1,000 円
東京ウイメンズプラザホール

(東京都渋谷区神宮前 5-53-67, 最寄り駅・山手線渋谷、東京メトロ表参道)

主催／教えられなかった戦争製作上映実行委員会

東京都豊島区駒込 2-14-7 琉球センター気付 dotouch2009@ybb.ne.jp

☎・ファックスによるお問合わせ、お申込みは 03 (5974) 1333

【電話については、月曜日を除く午前 11 時から午後 6 時】

○高岩仁(記録映像作家)

1935年福岡県生まれ。

1980年代、ベルトルト・ブレヒトの『戦争の存在を人々に伝えることも重要だが、なぜ起こるのか、誰が戦争を必要としているのか、根絶するにはどうしたらよいのか、それがないと真実を伝えたことにならない』という戦争の見方を知り、それ以来、日本の侵略戦争をこの観点で描くことをテーマとする。

1992年「教えられなかった戦争」シリーズ第一作・マレー編。その後、フィリピン編・沖縄編・第二の侵略・中国編を製作。

2008年1月29日急逝。72歳、「教えられなかった戦争・朝鮮編」製作を準備中であった。



1997年6月那覇「伊江島土地闘争を映像で記録し未来に生かす会」結成会にて

●実行委員会からのメッセージ

「(業績不振の)大問題は、特に張作霖による大豆の大量買い付けである」(三井物産大連支店長)。1928年、三井物産支店長会議におけるこの発言の後、新規に南満州鉄道と平行して鉄道の敷設を計画していた張作霖が、関東軍によって爆殺されました(同年6月4日未明)。当時、シカゴの大豆相場は旧満州を中心とした地域の大豆生産量に左右されていました。また、この地域は石炭や鉄鉱石などの資源も豊富なので、今日と同様にマネーゲームを操る人々が殺到していました。

この作品を製作した直接のきっかけは、高岩監督が上記の会議録を手に入れたことにあります。当時そこで何が起こっていたのかを元日本兵の方々や中国民衆の方々に話していただきました。資本家からみれば民衆はもちろん軍人も使い捨て自由ないわば生贄のような存在でした。この作品では「人民を搾取する」vs「人民に奉仕する」という2つの思想の対比が明確に語られています。

今日では全マスコミが戦前の大政翼賛会のような

状態になっていて、これに気付いている人は非常に少なく、多くの人々は集団催眠にかかっているのではないかと思います。そのため、今日この作品は決して陽の目を見る機会が多くはないと考えますが、時代を超えて永遠に生き続けていくものと信じています。

講演者・野田 明さんプロフィール

1929年広島生れ。1943年、満蒙開拓青少年義勇軍入隊。1946年6月、中国人民解放軍に参加。1958年、29歳で日本に帰国するまで13年間を中国解放の闘いに捧げる。

その闘いの中で、柳条湖事件の真相や関東軍の暴虐の実態について事実を知り、認識を正し、自分の一生をかけて中国人民に謝罪しようと決意した。

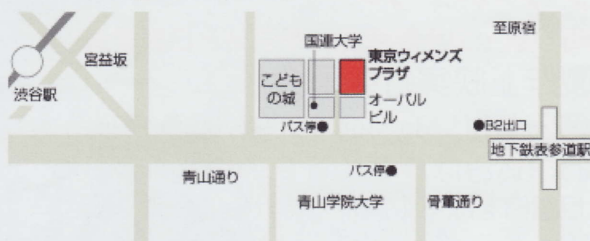
●教えられなかった戦争・中国編

敗戦から60年を経た今日、日本社会では首相の靖国参拝がくりかえされ、政治家や財界人による侵略戦争を美化する発言が大手をふるい、自衛隊が派兵され、究極として平和憲法の改悪が目指されています。戦争を必要とするものは誰か？それは昔も今も変わらず、自らの利益追求だけにひた走る財閥・資本家です。

日本の敗戦に際しては、アジアなど他の国に捕えられた戦犯971名が死刑判決を受けました。しかし日本が最も多くの人を殺戮し略奪を繰り返した中国では、死刑や無期懲役を受けたものは一人もいません。

“たとえ戦犯であっても、みな人間である。人間である限り人格を尊重し、反戦平和のために闘う人間にもどれる”わたしたちは、中国のこの政策から、いま深く学ぶ必要があります。(2005年製作・1時間38分)

●交通のご案内●



東京ウィメンズプラザ

- ・JR山手線・東急東横線・京王井の頭線:渋谷駅下車徒歩12分
- ・地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線:表参道駅下車徒歩7分
- ・都バス(渋88系統):渋谷駅から4分青山学院前バス停下車